

## 1946年南海地震の震源過程と南海トラフ巨大地震のセグメンテーション

### Rupture Process of the 1946 Nankai Earthquake and Segmentation of Megathrust Earthquakes in the Nankai Trough

# Phil Cummins[1], 金田 義行[2], 馬場 俊孝[3], 小平 秀一[4]

# Phil Cummins[1], Yoshiyuki Kaneda[2], Toshitaka Baba[3], Shuichi Kodaira[4]

[1] 海洋科学技術センター・地震フロンティア, [2] 海技センター・フロンティア, [3] 海洋センター・フロンティア, [4] 海洋センター 固体地球統合フロンティア

[1] Front. Res. Subduct. Dynam., JAMSTEC, [2] JAMSTEC, Frontier, [3] FRPSD, JAMSTEC, [4] IFREE, JAMSTEC

1946年南海地震の記録を用いてサブイベント解析を行った。この結果によって、1946年南海地震の震源過程には、二つのアスペリティーがあることが分かってきた。主な破壊開始点は、南海トラフ巨大地震のセグメンテーションの境界と一致する。この境界は、西南日本のスラブ内地震活動から検出したフィリピン海プレートの割れ目の位置と一致した。

さらに二つのアスペリティーの間には、最近の地震探査で発見した沈み込む巨大海山が存在している。従って、これらの不整形形状が、南海トラフ巨大地震のセグメンテーションを規定すると考えられる。

1946年南海地震の記録を用いてサブイベント解析を行った。この結果によって、1946年南海地震の震源過程には、二つのアスペリティーがあることが分かってきた。主な破壊は、震央から北西に位置する紀伊半島の南西海岸付近から開始して、西方向に伝播した。二つ目のアスペリティーは、室戸岬の南西に位置していると考えられる。主な破壊開始点は、南海トラフ巨大地震のセグメンテーションの境界と一致する。この境界は、西南日本のスラブ内地震活動から検出したフィリピン海プレートの割れ目の位置と一致した。

さらに二つのアスペリティーの間には、最近の地震探査で発見した沈み込む巨大海山が存在している。従って、これらの不整形形状が、南海トラフ巨大地震のセグメンテーションを規定すると考えられる。